

令和5年度イカナゴ仔稚魚調査結果概要

※本稿は調査終了後にとりまとめたもので、調査後の研究所での生物標本の測定、分析や資料の解析によって内容が改訂される場合があります。

国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所

令和6年1月9～16日（1次調査）、および1月26日～2月2日（2次調査）に、備讃瀬戸および播磨灘西部においてイカナゴ仔稚魚調査を実施しましたので、その結果をお知らせします。本調査は備讃瀬戸および播磨灘西部におけるイカナゴ仔稚魚の分布密度を明らかにし、瀬戸内海東部海域全体における資源管理のためのデータ取得と情報提供を目的としています。

調査方法

調査船こたか丸により、ボンゴネット（目合 $335\mu\text{m}$ 、図1）を海底-5mまで下ろして10秒間水平曳きからの傾斜曳き（船速約2ノット、巻上げ速度 $0.3\sim 0.5\text{m/秒}$ ）を、岡山県および香川県の定線調査点から各8調査点、および播磨灘西部の1調査点の計17調査点（図2）にて実施した。



図1 左：ボンゴネット、右：イカナゴ仔魚（背景の格子一辺は1mm）

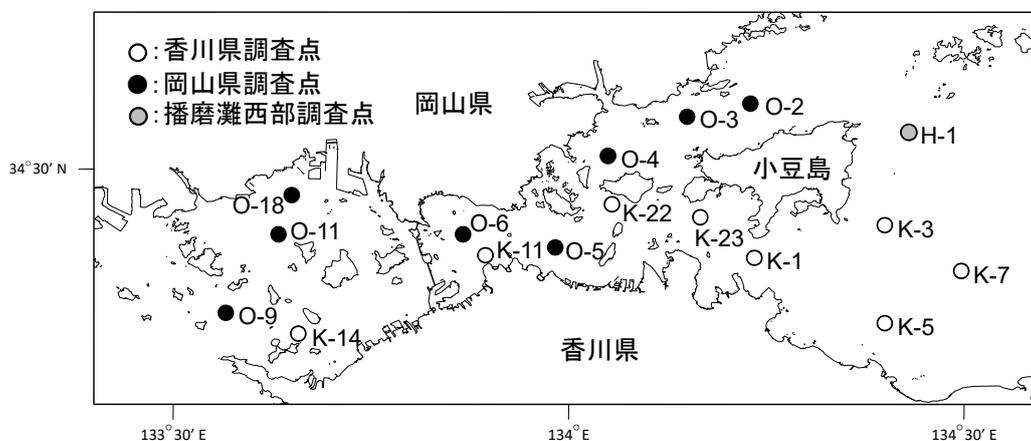


図2 調査点配置

1. 仔稚魚の出現状況（ボンゴネット左側採集結果を1m²水柱あたりに換算、図3）

1) 1次調査（1月9～16日）

備讃瀬戸中央部（K-22）で1.3尾（備讃瀬戸全体では平均0.13尾）出現した一方で、播磨灘西部では出現しなかった。

2) 2次調査（1月26日～2月2日）

備讃瀬戸では出現せず、播磨灘西部（H-1）で0.6尾（播磨灘西部全体で平均0.08尾）出現した。

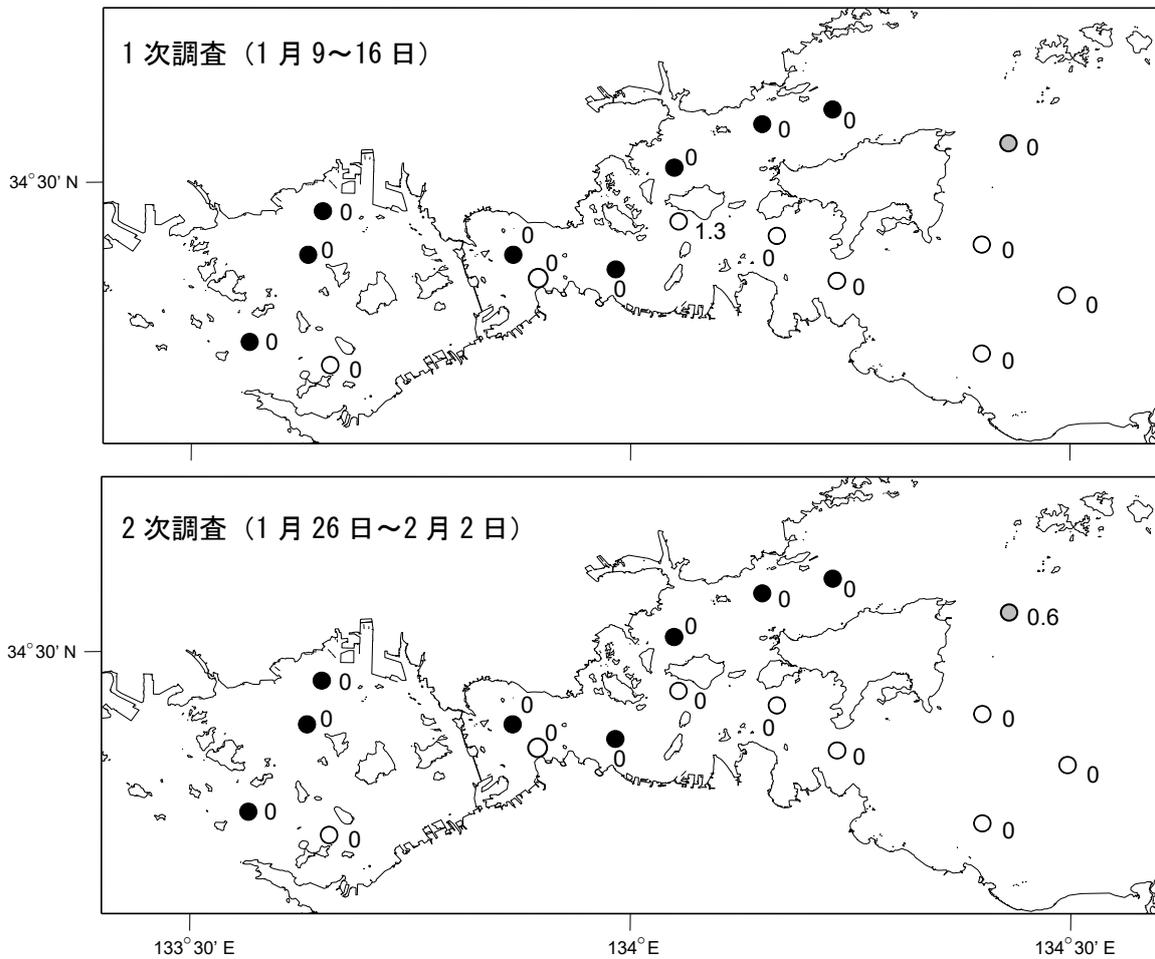


図3 各調査点におけるイカナゴ仔稚魚の採集尾数（ボンゴネット左側：1m²水柱あたりに換算）

表 海域ごとの仔稚魚平均採集尾数の推移（1m²水柱あたり）

海域	今年	昨年
備讃瀬戸（1次）	0.13	0.8
備讃瀬戸（2次）	0.0	13.7
播磨灘西部（1次）	0.0	0.0
播磨灘西部（2次）	0.08	1.8

2. イカナゴ仔稚魚のサイズ組成 (図 4)

1) 1次調査 (1月9~16日)

備讃瀬戸で平均脊索長 3.85mm、油球を保持した孵化後数日以内とみられる個体も得られた。

2) 2次調査 (1月26日~2月2日)

播磨灘西部での出現個体の脊索長は 7.87mm と 1次調査時より大型であり、備讃瀬戸中央部で孵化した個体が播磨灘西部に輸送されたものと推察される。

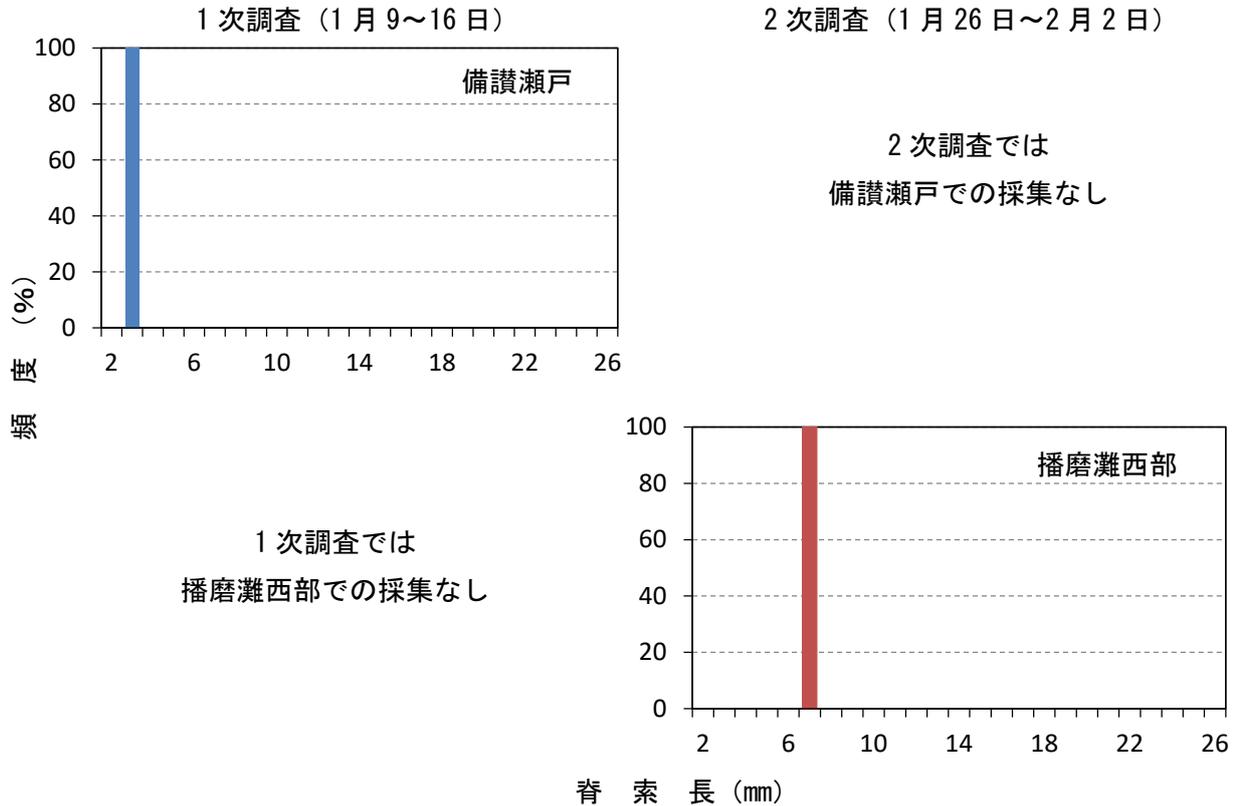


図 4 イカナゴ仔稚魚の脊索長組成

仔魚の出現は昨年を大きく下回り (表)、1次・2次調査ともに過去最低であった。なお、1次調査は仔魚の孵化完了前に実施され、今期の発生主群の把握には至っていない可能性があったが、孵化が概ね完了したと考えられる2次調査でも同様の傾向であり、資源の悪化が懸念される。

本調査は水産庁「水産資源調査・評価推進委託事業」の一環で実施されている。

お問い合わせ先

国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所

(担当：浮魚資源部 浮魚第2グループ 高橋)

TEL：0829-55-3593 FAX：0829-54-1216

E-mail：takahashi_masanori09@fra.go.jp